

企 画 展

何に
も
み
が
き
ね
。お
ま
ま
此
出
來
事
。何
を
し
て
耳
に
入
る
べ
き
、犯
し
た
る
罪
の
恐
ろ
し
さ
に
、我
れ
か
、
先
刻
の
仕
業
は
と
も
更
夢
路
を
辿
り

小説の風景



正宗得三郎《一葉女史像》 昭和36年(1961)

令和8年3月14日(土)～5月24日(日)

開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)

※展示替えのため3月9日(月)～13日(金)、5月25日(月)～29日(金)は休館いたします

※ご来館の前にホームページ等で最新情報をご確認ください

入場料 一般300円(200円)、小中高生100円(50円)

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、

特定疾患医療受給者証をお持ちの方とその介護者の方は無料

主催 公益財団法人 台東区芸術文化財団

台東区立 一葉記念館

〒110-0012 東京都台東区竜泉3-18-4 TEL03-3873-0004

東京メトロ日比谷線三ノ輪駅徒歩約10分

<https://www.taitocity.net/zaidan/ichiyo/>



たいとう文化発信

一葉の肖像と小説の風景

現

在、一葉の小説を文庫本や全集で読む際には、文字だけで読まざるを得ませんが、発表当時は多くの作品に挿絵が添えられていました。また一葉とその作品は、錦木清方や木村荘八など多くの画家たちにインスピレーションを与え、様々な肖像画や小説世界が描かれています。

本展では、小説の挿絵、絵画や画集、ゆかりの地の錦絵など、一葉が紡いだ物語をより具体的にイメージさせる絵画資料を展示し、また残された写真や肉筆肖像画から見てとれる一葉の人物像もあわせて紹介いたします。



楊洲周延
『別れ霜』第一回挿絵
明治25年(1892)

『別れ霜』は、明治25年(1892)3月31日から同年4月17日の『改進黨新聞』に全15回にわたって連載された。筆名は〈浅香のぬま子〉、すべての回に楊洲周延の挿絵が掲載された

富岡永洗
『「暁月夜」挿絵(琴の音にかよふ玉章)』
明治26年(1893)

明治26年(1893)2月発行の雑誌『都の花』第101号掲載。香山家の令嬢一重に弟基之助が森野敏から預かった手紙を渡す場面。雑誌掲載時には挿絵が効果的に使われ、本文にはない場面が挿絵として描かれることもあった



木村荘八『たけくらべ』
大正時代後期

『たけくらべ』の七章で美登利が信如に花の咲いた枝を折ってくれるよう頼む場面を描く。木村荘八は一葉を敬愛し、『たけくらべ絵巻』などその小説をモチーフにした作品を数多く描いた



岡 董高『一葉像』 昭和55年(1980)

岡董高は一葉の父母の出身地である山梨県甲州市中萩原生まれの洋画家。背景の軸には「ゆく雲 夏子」とあり、また左奥の襖絵に描かれた風景は山深い中萩原を思い起こさせる



樋口一葉肖像写真

新橋江木写真店台紙貼り。明治41年(1908)11月17日、築地本願寺で営まれた一葉の十三回忌法要の際に配付された写真。半襟の花柄が消され、顔も目、眉、鼻、口元などが補正されている



瀧澤徳雄『美登利』
年代未詳

美登利は『たけくらべ』の主人公の一人。祭礼提灯と手にした団扇に千束稻荷神社の稲紋が描かれている

台東区立 一葉記念館

〒110-0012 東京都台東区竜泉3-18-4 Tel 03-3873-0004
*ご来館の前にホームページをご確認ください

アクセス

- 地下鉄：日比谷線「三ノ輪」駅 徒歩10分
 - 都バス(都08系統)：日暮里駅(東口)⇔錦糸町駅(北口)(※いずれも「竜泉」下車) 徒歩3分
 - 北めぐりん：「一葉記念館入口」下車 徒歩2分
 - ぐるーりめぐりん：「一葉記念館」下車 徒歩5分
 - つくばエクスプレス浅草駅 徒歩15分
- *駐車場はありません。

